

天文漫語數篇

1. 私信を引用することは恐縮であるが、山口縣長府の淺野君からの近信に「相變らず彗星さがしをやつてゐます。此頃の南天銀河附近には身元不詳のもの少々ありますが、只今のところ私の繩張内は異常ない様です。よく7-8等程度の微光流星を見かける様になりました。夏になつて殊に多くなつた様です。全くデタラメで、群になつてゐるらしいものをまだ見ません¹とある。淺野君は手製の反射鏡で彗星をさがしてゐる。どうでも一個發見しないと承知出来ないといふ元氣で、グラフ星圖に載つてゐない小星雲を見たとして、私は數回調査して上げたことがある。勿論運動がないと彗星としては問題にならない。星圖になくてもカタログにはある。有名な N.G.C. カタログには面白い略符號で示してある。例としてアンドロメダ大星雲、ヘルクレス球狀星團、それから射手座の一小星雲について書いてみる。

M	NGC	記 事
31	224	!!! eeB, eL, vm E (Andromeda)
13	6205	!! eB, ⊕, vRi, vgeCM, st 11
—	6816	eF, pS, R, vibM, * np

記事の略符を原語のまま下に掲げておく。まだ他に澤山あるが、上記の三天體に關係あるものみにする。

- b: brighter B: bright C: compressed e: extremely, excessively
- ee: most extremely E: extended F: faint g: gradually
- l: little, long L: large m: much M: middle
- n: north p: preceding, pretty R: round Ri: rich
- S: small v: very *: a star !!!: very much remarkable
- !!!: magnificent, or otherwise interesting object ⊕: globular cluster
- st 11.....: stars from 11th mag. downwards

2. 變光星は随分澤山發見されたもので、かうなつては觀測者が足りない。米國ハーバード大學天文臺は變光星に熱心、且何でもまとめるのが好きで、時時過去何年かの觀測をまとめて出版してくれ、私達には實に調法である。これによつてまだ觀測が十分でなく、將來の觀測を必要とする星を選ん

でやれば能率が上るわけである。9等星位でまだ不十分がある。又一方ではどしどし発見される。大體變光することが決れば位置と共に發表される。今まで発見されないのであるからさぞ微光星ばかりであらうと想像してゐると決してさうばかりでもなく、極大7等級のアルゴ1ル型のものがあつたり、極大8等級の長週期星も混じてゐる。しかし變光範圍は大抵一等級前後で、疎雑な眼視觀測では見失はれるやうなものもある。新しく變光星が発見されると、星表を調べてその近くの比較星によつて變光性質を確める。最初に好結果を發表した人の要素は大いに歡迎されることになる。小山理學士もこの國際舞臺上の一勇士である。

3. 火星はその接近の度毎にさわがれるがさて望遠鏡でのぞいてみると大いに悲觀する。これは何分相手が小さいためで、木星ならこの點餘程ラクになる。觀望には月が最もよろしいが、あの美しさをただ見てたのしむだけに止らず、一步を進めて觀測にはげむ人が日本にも現られて然るべく、W. H. Pickering 氏かがいつてゐるやうに、月は表面から少し内部に入つた個所は決して死んでゐるのではなく、地球以上でもあるまいが、この活動は必ず表面に時々見えるわけで、これを捕へ得る機械を持つてゐる人は少なからうし、あまり慾をしないやうに、而も機敏に月面のスケッチを續けてみたい。寫眞ではダメで、倍率を高くして或る一小部分を調べるのである。受持部分を決めて10年やればモノになる。

4. 米國キルソン山天文臺では太陽黒點の磁性を觀測してゐるが、去る2月12日にあらはれ、19日に中央子午線を通過した北半球の一群は緯度2度と測定され、去年10月以來の舊週期の最後の群であらうといはれてゐる。新しい週期に屬するものがどしどし出現してゐるこの頃、珍しいこととて花山に集つた觀測報告を調べてみた。不幸その頃のスケッチはなく、清水氏の寫眞にも見えてゐない様であるが、沓掛君の第130番黒點は13日から17日まで見られ北3度と觀測され、松本君の第71番黒點は13日から21日まで見られ北5度と觀測されてゐるから多分これであらう。太陽黒點はただ數へるだけでなく、スケッチする時代に入つた。觀測時間が長くなるからそれだけ多忙な人は困るが、特に赤道儀を持つてゐる人はその位置と形とを調べれば一層面

白い結果が得られるだらうと思ふ。尙、沓掛君は3月11日に第141番黒點を緯度北0度と見てゐる。さうすると舊サイクルは2月で終つてゐないことになる。

5. 去年であつたか、札幌の下保君が太陽黒點の面積を調べて、相對數のみではわからない特殊の太陽活動状態を發表した。黒點の面積は投影或は直視により見積ることも出来るが、見取圖を正確にとる方がよろしい。最も理想的なのは寫眞觀測であるが、太陽寫眞は少々危いで、長い望遠鏡を使はないと焦點像は小さいし、引伸ばせばレンズのゴミが出ていやになる。そこでシロスタツトまで考が進むが、素人の私達でも一應考へてみて損はない。花山のやうに分光寫眞をとる場合は大口徑の鏡面を必要とするが、直接寫眞なら口径10センチで十分、機械部分も驚くほど高價なものではなく、來年の日食用に西村製作所で設計された花山のシロスタツトの詳細を私は聞いて以來、しきりにほしくなつてゐる。國産で十分間に合ふのであるから、こんな高等玩具を据付けて太陽寫眞を撮る有志諸君の出現を希望する。花山の太陽直接寫眞は長焦點の凹面鏡に受けた光を35ミリに絞り $\frac{1}{4000}$ 秒の露出である。

6. ヤーキースの60センチ、リクの90センチ、ドミニオン180センチ鏡面のアルミニウム鍍銀が成功して、キルソン山の150センチと250センチ鏡面(副鏡も一しよに)もアルミニウムになつた。作業に要した日数は150センチが4日、250センチが5日かかり、その間曇天の日が多くて、觀測は殆んど妨げられなかつたとある。そして早速ヘルクレス新星のスペクトル寫眞を撮つたところ紫外部が途方もないところまで見事にあらはれてをり、シリウスの伴星の寫眞もハツキリ出たとある。この調子では500センチ反射鏡のアルミニウム鍍銀も決して難事ではあるまいといふ。その完成の暁を考へてみると實におそろしい。天體物理學の新しい業績が獨占されるのも宜なる哉である。

7. 理由はわからないが、火星の雲はいつも淡黄色を呈す。そして極そのものは純白のこともあり、美しい淡綠色のこともあり、又黄色のこともある。雲は星の中心附近のある特殊な區域に多く、極附近にある場合は帶狀又は輪狀をなしてゐるといふ。これは火星の地理學を研究する好材料である。7月下

旬京都の前田君が花山に来て火星曆をつくりたいといつてゐた。太陽から近く軌道がかなりの橢圓であるから、火星面上の「太陽曆」は意義がある。英曆もなどにある數字を材料として火星曆をつくれれば、一ヶ月が56日、大か小の月出來やう。このやうにしてはじめて火星表面の觀測も面白くなるのではあるまいか。

8. 天體寫眞術の進歩により、オリオン星座全體を包んでゐる星雲、プレヤデス星團を包んでゐる星雲などが知られて來たが、銀河系外星雲を寫眞的に調べてゐたヤーキース天文臺では大熊星座の東北隅にある二小星雲が淡い光帯によつて連結されてゐることを知つた。短時間の撮影では見えず、一時間かけてわかつた。この光帯の腕の長さが6000パーセクといふから大したものではないが、この兩星雲のみに關係してゐると考へれば興味深い。よく調べてみればこの種の星雲狀物質は他にもありそう？

9. 3月下旬に小槇君と花山で會つた時流星の話をしきりにした。私達の一致した結論は何等かの形で少しでもまとめることである。即ち、月が妨げになるが、毎日ある一定の時間内になるべく廣い空を見守つて出現數のみを數へること、正確な觀測をする場合は必ず良好な幅射點を得るまで頑張ること、幅射點から軌道を計算すること、及び共同觀測であつた。數を數へるだけは實に頼りないことのやうにも思はれるが、短時間内の獨立した數個の觀測よりもよく、もし長年月の連続が實現すれば大事業である。軌道計算は趣味として面白く、ここに至つて觀測の効果が現れる。肉眼を天文觀測に使用する極致といひたい。(淡翠山人)

謹 告

去る八月十一日早曉の京阪地方の豪雨のため花山の西麓にある稚兒が池決潰し、爲めに下流に住居せられてゐた當天文臺主事公文武彦理學士一家は一擧にして、家屋諸共押流され、遂ひに二息女は水禍の犠牲となられし大慘事の惹起した事は當時の紙上に精報された如くであるが、目下同氏夫妻は幸ひ輕傷を負ふたのみにて奇蹟的に九死一生を得た幼兒を抱きて無事避難せられて居ります。茲に改めて之れを會員諸氏に報じ、謹んで公文氏一家の悲痛を稿らひ、深く哀悼の意を表します。

昭和十年八月

東亞天文協會